

第93回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年3月13日(月) 14時～17時

兼題「壺焼き」

- 川井素山 ○渡り漁夫訛言葉の国自慢
渡し舟きしむ櫓の音春の風
縁台の汁粉に憩ふ梅見かな
壺焼きの汁まで干して覗く殻
- 保井寶正 ○月の夜の春の棚田の夢幻かな
渦びらき点描のよな渦の渦
職辞して自分探しの遍路かな
壺焼きや人をあたためもてなさる
- 後藤克彦 ○初蝶や低き垣根を試し飛ぶ
夕陽浴び輪郭見せる 斑^{は だれやま}雪山
壺焼きの臭い競ふや浜の店
年毎に飾る 女^{め ひな}雛の目和らぐ
- 佐久間喬 ○紙箱の隅にひしゃげたる蓬餅
白めしにけふのちからの寒卵
ふた外し手間を楽しむ焼きさざえ
無縁塚風の匂いや枝垂梅
- 丸山酔宵子 ○悔やむこと思ひめぐらすしじみ汁
花菜漬ひと箸つけて先ず一献
クロッカス今朝も律儀に芽を増やす
壺焼きや五円でふたつよしず張り
- 菊地崇之 ○春炬燵真剣勝負紙角力
壺焼屋煙る三浦の人気小屋
桜餅小町の呪いや楊貴妃詛
夕餉時焼芋お芋用意どん
- 吉田啓悟 ○天井の明るくあけて春の風邪
池底に風吹いてをりやなぎの芽
囀りにはずむ一步のウオーキング
壺焼やいいかわるいか迫る妻

- 青木英林 ○長閑さよ形見の杖で散歩にも
飯蛸あたの中り感じて釣果あり
初燕見上げる空の青さかな
壺焼や誇りも高き無骨者
- 牧野里山 ○暁暗やにおい微かに梅の花
しだれ梅疎水の脇に咲き乱れ
老夫婦見上げる先にしだれ梅
春の空かすんだ先に陽の光
- 佐久間たか子 ○風通る吉野紙ゆれ雛納め
穏やかに墓碑磨きけり水温む
つば焼きや煙の先に夕の空
長居してここち良き宴春の宵
- 山本草風 ○勤め終へほど絆しを放下春の旅
三日旅狭庭に杏ひっそりと
あの島の旨し壺焼あの娘
浅蜷売り威勢の声に朝の酒
- 金森純女 ○壺焼や出てこぬ肝のうらめしき
山笑ふ黄色帽子の子が駆ける
春雷や震災の日の近づけり
花衣胸乳も色に染まりけり
- 佐伯兵庫 ○啓蟄や一枚脱いで畑手入れ
壺焼やほうばる子等に波の音
一万歩友と語りて日の永し
うぐひすも花にみとれて鳴きもせず
- 渡辺鯨波 ○遠景に原発見えて栄螺食ふ
壺焼きや島に数多の無頼猫
いつのまに病氣自慢牡丹鍋
病院のミニコンサート龍の玉

澁谷瑠璃 ○ぶらんこに船頭ひとり漕ぎ出づる
壺焼の中隠れたる幸福よ
桃色のほろりと溶ける春の夢
憂鬱も吹き閉じ込める 石鹼玉^{しゃぼんだま}

石川智子 ○壺焼きの煙は空に香を届け
猫昼寝して梅の花はらり舞う
つぼみ見て待つ待ちきれぬ花見かな
窓の向こうつぼみのひとつみつつあり

次回「萩句会」

日時 2017年4月10日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『囀り』一句 当季雑詠三句 計四句